

☆ 次の文章を読んで、答えましょう。

おだわら あたみ けいべんでつどうふせつ
 小田原・熱海間に軽便鉄道敷設の工事が始まったのは、良平の八つの年だった。
 良平は毎日村外れへ、その工事を見物に行った。工事を—といったところが、ただ
 トロッコで土を運ばんする—それがおもしろさに見に行ったのである。

トロッコの上には土工どこうがふたり、土を積んだうしろにたたずんでいる。トロッコは
 山を下るのだから、人手を借りずに走ってくる。あおるように車台が動いたり、
 土工のはんてんのすそがひらついたり、細い線路がしなったり—良平はそんなけしき
 をながめながら、土工になりたいと思うことがある。せめては一度でも土工いっしょと一
 ロッコへ乗りたいと思うこともある。

トロッコは村外れの平地へ来ると、自然とそこに止まってしまふ。と同時に、土工
 たちは、身軽にトロッコを飛びおりるが早いから、その線路の終点へ車の土をぶちまける。
 それから、こんどはトロッコを押し押し、もと来た山の方へ登りはじめる。良平は
 そのとき、乗れないまでも押すことさえできたらと思うのである。

※「トロッコ」 芥川 龍之介

(一) 良平が、トロッコや土工にあこがれている様子が書いてあります。

「土工になりたいと思う」のほかに、ニカ所さがして、マスがびったりうまる
 ように書き出しましょう。

こ	乗	緒	せ
と	れ	に	め
さ	な	、	て
え	い	ト	は
で	ま	ロ	一
き	で	ッ	度
た	も	コ	で
ら	押	へ	も
×	す	乗	土
		り	工
		た	と
		い	一

と思う

あくたがわりゅうのすけ
 芥川 龍之介の
 作品を読んでみ
 よう。「くもの糸」
 「杜子春」「鼻」
 などがあるよ！

(二) トロッコが下るとき、スピードがあつて音が聞こえてきそうな文章があります。
 そのまま次のわくの中に書き写しましょう。

い	土	あ
た	工	お
り	の	る
、	は	よ
細	ん	う
い	て	に
線	ん	車
路	の	台
が	す	が
し	そ	動
な	が	い
っ	ひ	た
た	ら	り
り	っ	、

